

平成 25 年度 日本原子力学会北関東支部講演会の開催について

時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。日本原子力学会北関東支部では、平成 25 年度支部講演会を下記の通り開催致します。つきましては、ご多忙中とは存じますがご参加頂きますようお願い申し上げます。

記

1. 日時・場所

日時:平成 26 年 1 月 23 日(木) 15:00～17:00

場所:テクノ交流館リコッティ・多目的ホール (東海駅東口徒歩 3 分)

(<http://www.jaea.go.jp/04/ricotti/>)

2. 講演プログラム

- 1) 開会挨拶 (小森北関東支部支部長) 15:00～15:05
- 2) 「原子力発電所の安全性向上策」 15:05～16:00
日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社 技師長 守屋 公三明 氏
- 3) 「様々な原子力発電シナリオに対応した核燃料サイクルの役割」 16:00～16:55
日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門
研究副主幹 西原 健司 氏
- 4) 閉会挨拶 (藤森北関東支部副支部長) 16:55～17:00

3. 参加方法及び問合せ先

本講演会は、学会会員及び非学会員に係らず、参加する事が可能です。できるだけ多くの方々の参加をお待ちしております。参加人数把握のため、ご参加頂ける場合は以下の問合せ先に所属及び氏名を御連絡下さい。(当日参加も歓迎いたします)

問合せ先:北関東支部担当幹事 可児 祐子 E-mail : yuko.kani.hp@hitachi.com

平成 25 年度 日本原子力学会北関東支部講演会 要旨

1. 原子力発電所の安全性向上策

日立 GE ニュークリア・エナジー株式会社 技師長

守屋 公三明

福島事故は巨大な地震とその後の津波によりプラント機器の広範囲な共通原因故障から炉心損傷を誘発したものであり、この事故によって自然災害を含む外的誘因事象に対する原子力プラントの脆弱性を認識させられた。これまでの安全対策は、機器の多重故障や損傷を想定して設備の多重化、多様化を徹底的に施すことで十分に低い炉心損傷頻度を達成してきたが、外的誘因事象では別のアプローチを必要とすると考えられる。本講演では、外的誘因事象に対して安全を確保するための対策について提案する。

2. 様々な原子力発電シナリオに対応した核燃料サイクルの役割

日本原子力研究開発機構 原子力基礎工学研究部門 研究副主幹

西原 健司

福島事故以降、原子力発電を減らし、核燃料サイクルを見直す議論が行われるようになったが、原子力発電を減らした場合でも、核燃料サイクルによりプルトニウムやマイナーアクチノイドを分離・核変換することは、高レベル廃棄物の環境負荷を低減することに有用である。本講演では、様々な原子力発電シナリオに対応した核燃料サイクルの役割を、分離変換技術の観点から議論する。